

2018年1月11日

公益財団法人とかち財団との合併のお知らせ

公益財団法人 起業家支援財団

初春の候、皆様方におかれましては、はいよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。

当財団は、本年4月1日をもって公益財団法人とかち財団(北海道帯広市)と合併することとなり、本日、両財団において発表しましたのでお知らせいたします。

合併は、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(法律第49号)」に基づいて行うこととし、公益財団法人とかち財団が存続法人、当財団は消滅法人となる吸収合併となります。当財団は今年3月31日をもって、学生起業家支援事業をはじめとする神奈川県での事業を終えることとなりました。

当財団は、平成19年3月、神奈川県知事の許可を得て、創業をめざす次世代の経済社会の担い手を支援・育成し、起業家経済から「起業家社会の実現」を目的として設立しました。以来10年余、10期約280名の起業を目指す学生に奨学金を支給し、70回の学生起業塾を開催して来ました。その結果、50名が起業し、また、起業に至っていない者もそれぞれが創業の準備を進め、あるいは企業内起業家として新規事業に挑戦しています。

また、「経営道場」の開催、ベンチャー起業家と熟練経営者をつなぐフォーラムの開催、内閣府受託の「地域社会雇用創造事業」を実施し、最近では、「創業後アーリーステージにある起業家の支援事業」、大学などが行う「アントレプレナー教育の支援事業」、神奈川県が推進する「起業家創出促進事業」の支援をさせて頂きました。

ここ10年間で、社会も産業も大きく変わりました。少子高齢化と地域経済の活性化は現実の課題となり、産業もこれまでのモノづくり中心のハード分野から、ネットワークやIT技術、AI技術などソフト分野が拡大しています。10年の節目を迎え、今後の財団のあり方について議論を重ねた結果、これから注目すべきは、「第1次産業の農業」だろうと考えるようになりました。全国との交流を重ねる中で、農業分野で先進的な取り組みを行い、多くの若手農家や酪農家が育っている地域に出会いました。それが「フードバレーとかち」を旗印に活躍している北海道十勝地方です。

これまで学生起業家支援を通じて、起業を志す若者の裾野を広げること、若手起業家の挑戦によって地域経済を活性化することに取り組んできましたが、当財団の次の展開は、今後の日本の農業を、起業家精神を持った人材の育成・支援を通じて活性化すること、また、「アグリテクノロジー」を目指した農業の活性化を通じて地域振興を図り、地方創生に寄与することという結論に達しました。そのためには、とかち財団と一緒に進めるのが最も良いと考えるに至りました。

設立以来、神奈川県をはじめとして皆様方には、当財団の活動にご支援・ご協力を頂き、改めて御礼と感謝を申し上げます。当財団の事業及びこれまでの経験と実績はとかち財団に継承されることとなっております。

皆様方におかれましては、これまで同様にご支援・ご協力をお願いいたします。

以上

[参考]

公益財団法人とかち財団 概要

1. 名称

公益財団法人とかち財団（旧名称:財団法人十勝圏振興機構）

設立:平成5年8月9日

公益財団法人移行:平成25年4月1日

2. 所在地

○本 部 [十勝産業振興センター内]

〒080-2462 帯広市西 22 条北 2 丁目 23-9

○十勝産業振興センター[財団所有施設:平成 18 年 4 月 1 日設置]

〒080-2462 帯広市西 22 条北 2 丁目 23-9

○北海道立十勝圏地域食品加工技術センター[北海道立施設:平成6年4月1日設置]

〒080-2462 帯広市西 22 条北 2 丁目 23-10

3. 設立目的

北海道十勝圏域において、農業を核とした地域産業の振興を支援することにより、地域産業の高度化と複合化を促進し、もって活力ある地域社会の形成に資することを目的とする。(定款 第3条)

4. 事業内容

- (1) 地域産業の技術力の高度化に関すること
- (2) 地域産業の担い手の育成に関すること
- (3) 産学官の連携の強化に関すること
- (4) 地域産品のピーアール及び販売促進に関すること
- (5) 技術支援及び研究開発施設の利用提供に関すること
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業